

科目コード	S23202	科目名	言語発達障害演習				
履修区分	必修	開講期	2年前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	河村 千夏						
授業の概要	この講義では、小児のコミュニケーション障害に関する具体的なアプローチ方法の理解を目指します。言語聴覚研究所付属相談室利用の事例等を通してディスカッション、アセスメントなど積極的なアクティブラーニングを行います。						
DPとの関連	人間を広い領域から捉え、人を愛する心と専門技術を統合できる能力を身につける						
	言語聴覚障害学について深い専門的知識を修得し、それを臨床において適切に応用することができる能力を身につける						
	職務遂行に必要な社会性、倫理観、専門職業人としての自覚を身に付け、多様な患者、家族、医療・福祉関係者等と円滑なコミュニケーションを取ることができる能力を身につける						
	複雑で多様な障害について常に科学的に探究する姿勢をもち、積極的に自己研鑽し続ける能力を身につける DP：ディプロマ・ポリシー（修了認定の方針）= 修了までに身に付けるべき資質・能力						
到達目標	事例や実演を通して、言語発達障害の症状に伴う実態把握と、実態に沿った指導プログラムの立案技術を習得する。						
履修上の注意事項	事例や実演を通して、評価の実際、具体的な目標設定や課題内容、課題の実施について理解を深めていきます。事例の脳性麻痺の演習は、当事者の来校を予定しています。言語発達障害 講義が終了次第、協力者の来校可能日で計画する予定です。 。遅刻は2回で欠席1回扱い、開始後20分以降は欠席扱いですが、やむを得ず遅れた場合も参加してください。レポートや提出課題はC-learningより指示を出します。提出もC-learningでお願いします。提出物は期限、課題量の指定を守りましょう。提出が遅延する場合には事前に連絡を頂いていただきたいと思います。						
授業計画	回数	講義内容【担当教員】				事前・事後学修	
	1	小児の言語聴覚療法の流れ、障害の概要、評価法の復習				1年時の知能検査・発達検査・言語発達検査等の復習をする（60分）	
	2	検査結果からのアセスメント（発達検査を中心に）				遠城寺式発達検査、新版K式発達検査、PVT-Rについて復習をする（60分）	
	3	障害特性に合わせた訓練計画の立案：知的障害				知的障害の概要について復習をする（60分）	
	4	障害特性に合わせた訓練の実際：知的障害				訓練教材の使い方を考える（60分）	
	5	検査結果からのアセスメント（知能検査、認知発達検査）				WISC-、KABC-2について復習をする（60分）	
	6	検査結果からのアセスメント（知能検査、認知発達検査）				WISC-、KABC-2について復習をする（60分）	
	7	障害特性に合わせた訓練計画の立案：発達障害				発達障害について復習をする（60分）	
	8	障害特性に合わせた訓練の実際：発達障害				訓練教材の使い方を考える（60分）	
	9	事例からのアセスメント：脳性麻痺				脳性麻痺について復習をする（60分）	
	10	事例からのアセスメント：脳性麻痺				実技に向けた検査・教材等の準備をする（60分）	
	11	障害特性に合わせた評価の実施：脳性麻痺				実技に向けた検査教材等の準備をする（60分）	
	12	検査結果からのアセスメント：脳性麻痺				観察評価の内容を確認する（60分）	
	13	障害特性に合わせた訓練の実際：脳性麻痺				臨床像を整理する（60分）	
	14	情報の整理と書類作成				報告書の作成（60分）	
15	振り返り・まとめ				学びの整理をする（60分）		
成績評価方法	筆記試験実施 [50 点満点] 提出物・レポート [50 点満点] で評価します。						
教科書	書名・著者（出版社）					ISBNコード	
	言語発達障害学 第3版(標準言語聴覚障害学)【深浦順一編集】（医学書院）					978-4260043427	
	言語聴覚士テキスト第4版【大森孝一ほか（編）】（医歯薬出版）					978-4263266908	
参考書	各検査のマニュアル、解説ビデオ等						
	C-learningにて都度紹介していきます。						
教員からのメッセージ	1年次の言語発達障害講義・演習内容、講義資料を再度確認・整理しておきましょう。ディスカッションをしたり、図書館にある書籍を積極的に活用したり、教材を工夫したりして、発想をひろげるようにしましょう。						
教員との連絡方法	演習のあとと質問があれば承ります。C-learningからの連絡、質問も承ります。						
実務経験のある教員	言語聴覚士として小児療育センター及び特別支援学校にて言語発達障害児の臨床経験のあり、現在言語聴覚研究所付属相談室にて小児の言語相談・指導に携わる教員が担当する。						